

広報かわべ

号外

発行 加茂郡川辺町
編集 川辺町教育委員会
印刷 中部印刷 KK

「川辺町学校整備統合審議会より答申提出される」

教育の振興と機会均等を図り、地域の実態に応じた学校整備統合について調査・審議するため「川辺町学校整備統合審議会条例」が昨年九月の定例議会において制定されました。この審議会は、町長が委嘱する十五名（前号広報掲載）からなる委員で組織するものです。以来十二月二十一日までに六回の審議会を開催し、次のような調査、審議され、十二月二十六日、二校案が答申されました。

審議会の主な経過内容

昭和48年10月30日第一回審議会
(-) 審議会長及び副会長の選任

会長に佐伯武雄氏、副会長に西村卓郎氏を選任

(-) 審議会条例の説明

(-) 審議事項
(1) 地域性を考えないで審議

(2) 現在までの学校統合について経過報告

(2) 今までの諸問題については白紙として現時点に立つて審議する。

昭和48年11月15日第二回審議会
(-) 審議事項

(1) 資料を提案して審議する
○交通問題が解決すれば可能である。

○母の立場から反対
一校案、二校案、三校案

昭和48年11月26日第三回審議会
(-) 白川町黒川統合小学校を視察

(-) 審議事項

(1) 地域性を考えないで審議

(2) 審議会として住民に納得の出来る信念をもつて審議する。

昭和48年12月3日第四回審議会
(-) 審議事項

(1) 一校案について

○現時点から見て一校が良い。

二校案答申内容

昭和48年10月30日川辺町長より
諮問を受けました川辺町学校整備統合について当審議会におきましては、慎重に調査審議いたしましたところ、何分にも学校整備の状況が何れも緊急を要するものが多々あります。

そこで教育百年の町の理想の計画として次のような結論を見ましたので答申をいたします。

適正な規模の条件とは学校がおおむね12学級から18学級まである。標準規格とは学級数がおおむね8学級から13学級までである。

学校規模の適正化の見地にたてば、現在の川辺小学校の外に下麻生小学校、川辺分校、上米田小学校を統廃

理由(1)適正規模の児童数、学級からみて。
児童数の総計九二三人（昭和48年10月現在）であり川辺小学校を除く他は何れも小規模校であつて今後の児童数の推移も多少の増減があるにしても横ばいの状況であり、効果的な教育的な教育への期待はおろか学校運営上（職員数、教科学習）に支障を来す場合が往々あります。

文部省は小学校の規模について次のように指導をしています。

理由(2)適正規模の児童数、学級からみて。
○あまりにも小規模となるので理想的でない。
○教育上から見て理想的ではない。

理由(3)三校案について。
○あまりにも小規模となるので理想的でない。

広報かわべ 号外

的施設整備の充実を図るの
が必然的急務であり、川辺
町小学校教育の理想の姿で

理由③通学距離から考えて。

本町は東西に長く通学距離
は10km余りでありまして小
学校児童としての距離、時
間等から見て現在の川辺小
学校の外に一校新設が望ま
しいのであります。

文部省は通学距離及び通学時間について次のように指導しています。

最大値(小学校)四、〇〇〇米
適昭値(タ)一、〇〇〇米
通学時間 十五分以内

第2、位置は川辺大橋付近
通学 距離、環境、立地条件
等からみて川辺大橋付近が最
適地と考えます。

第3、要望事項

(1) 校区の変更は児童数および
通学距離を考慮すること。
(2) 通学距離は四、〇〇〇m 以

内を原則としてそれを越えた場合は通学バスを考慮すること。

(3) 日照、水利に恵まれ公害のない環境のよい所に新設のこと。

(4) 昭和49年中に着手すること
以上当審議会におきまして学校整備統合計画につき審議調査いたし

参考

昭和48年12月26日
川辺町長 有本九十九殿

昭和48年12月26日

◎1 桜案 九二三人、18学級

現在の交通事情或は通学距離
通学時間等の安全教育上の不安
があり、スクールバスも考
えられるが、時間、方法、台
数等に問題が残ると思われま
す。

3 校案
 (1) 川辺小学校
 (2) 上米田小学校

以上の場合、上米田小、分校は危険校舎であり、早急に改築に迫まられている現状であり、地域からも改築・修繕の強い要望も出ているのであります。川辺小学校はそのまま残し他の2校を存置する場合

川辺大橋付近に決定した場合（昭和48年10月現在児童数）

学年	下麻生	分校	吉田	比久見 (上)	計	学級数
1	17	19	3	4	43	1
2	13	22	2	5	42	1
3	18	27	5	7	57	2
4	22	23	3	8	56	2
5	15	26	5	7	53	2
6	18	31	7	4	60	2
計	103	148	25	35	311	10
学年	川辺小	下飯田	福島	比久見 (下)	計	学級数
1	78	1	6	6	91	3
2	87		7	9	103	3
3	96	2	7	5	110	3
4	83	1	8	12	104	3
5	82	2	6	11	101	3
6	89	3	6	5	103	3
計	515	9	40	48	612	18

以上のように答申されましたので1月11日町議会議員、教育委員会の答申に合同会議を開き、審議会の答申に

ついて今後とも慎重に検討していくことになりました。

ました結果を報告いたしましたが、これ等の施策の実施は一にかゝつて町当局の重大なる決意と関係者の深い理解に基づかねばなりません。

川辺町の将来をなう子弟教育の振興方策に寄与する道は、これ以外にないとの強い決意のもとに実現に努力されますよう要望いたしまして当学校整備統合審議会の

幸を一刻も延ばすことは出来ません。

尚、実現した場合、上米田ト下麻生小十分校の2つの小組模校が出来るのであります。

(二) (1) 川辺小学校
(2) 上米田小学校
(3) 下麻生小校舎へ分校児童を入れる。

何れにしても、川辺小学校をそのまま残し、他の2校という、3校案の場合には、6学級から8学級となり、学級内の児童数も非常に少なく、学級経営上支障をきたす場合が多いのであります。

(3) 上川辺、下麻生、下吉田
以上のようにするには、比
久見、石神間に橋が必要と
なります。